

いつも何度でも

「千と千尋の神隠し」のED

よ 呼んでいる 胸^{むね}のどこか奥^{おく}で
いつも心^{こころ}踊^{おど}る 夢^{ゆめ}を見^みたい

かなしみは 数^{かず}えきれないけれど
その向^むこうできっと あなたに^あ会える

く 繰^{かえ}り返すあやまちの そのたび ひとは
ただ青^{あお}い空^{そら}の 青^{あお}さを知^しる
は 果^はてしなく 道^{みち}は続^{つづ}いて見^みえるけれど
この両^{りょうて}手^ては 光^{ひかり}を抱^だける

さよならのときの 静^{しず}かな胸^{むね}
ゼロになるからだ^{みみ}が 耳^{みみ}をすませる

い 生^いきている不^ふ思^し議^ぎ 死^しんでいく不^ふ思^し議^ぎ
花^{はな}も風^{かぜ}も街^{まち}も みんなおなじ

よ 呼んでいる 胸^{むね}のどこか奥^{おく}で
いつも何^{なん}度^どでも 夢^{ゆめ}を描^{えが}こう

かなしみの数^{かず}を 言^いい尽^つくすより
同^{おな}じくちびるで そと^{うた}と歌^{うた}おう

と 閉^とじていく思^{おも}い出^での そのなかにいつも
わす 忘^{わす}れたくない ささやき^きを聞^きく
こなごなに砕^{くだ}かれた 鏡^{かがみ}の上^{うえ}にも
あたら 新^{あたら}しい景^{けしき}色^{うつつ}が 映^{うつ}される

はじまりの朝^{あさ}の 静^{しず}かな窓^{まど}
ゼロになるからだ^み 充^みたされてゆけ

うみ 海^{うみ}の彼^{かなた}方^はには もう探^{さが}さない

かがや
輝くものはいつもここに
わたしのなかに^み見つけられたから

いつも**なんど**でも
何度

「**せん**と**ちひろ**の**かみかくし**」のED
千 千尋 神隠

よんでいる **むね**のどこか**おく**で
呼 胸 奥
いつも **こころ**おどる **ゆめ**を**みたい**
心 踊 夢 見

かなしみは **かぞ**えきれないけれど
数
その**む**こうできっと あなたに**あ**える
向 会

くりかえすあやまちの そのたびひとは
繰 返
ただ**あおい****そら**の **あお**さを**し**る
青 空 青 知
はてしなく **みち**は**つづ**いて**み**えるけれど
果 道 続 見
この**りょう**ては **ひかり**を**だ**ける
両手 光 抱

さよならのときの **しず**かな**むね**
静 胸
ゼ口になるからだ**が** **みみ**をすませる
耳

いきている**ふしぎ** **しん**でいく**ふしぎ**
生 不思議 死 不思議
はなも**かぜ**も**まち**も みんなおなじ
花 風 街

よんでいる **むね**のどこか**おく**で
呼 胸 奥
いつも**なんど**でも **ゆめ**を**えが**こう
何度 夢 描

かなしみの**かず**を **い**いつくすより
数 言 尽
おなじくちびるで そっとうた**お**う
同 歌

とじていく**おも**い**で**の そのなかにいつも
閉 思 出
わすれたくない ささやきを**き**く
忘 聞

こなごなにくだかれた かがみのうえにも
碎 鏡 上

あたらしいけしきがうつされる
新 景色 映

はじまりのあさの しずかなまど
朝 静 窓

ゼロになるからだ みたされてゆけ
充

うみのかなたには もうさがさない
海 彼方 探

かがやくものはいつもここに
輝

わたしのなかに みつけられたから
見